

豊富な子育て支援メニュー
子育て用品の支給が大人気

市では、妊婦に対する支援のほか
に、乳幼児に対してもさまざまなメ
ニューで支援しています。一般的に
実施されている無料健診や予防接種

子育て業務を担当する職員を加え、
スタッフを充実させてさまざまな場
面での相談や支援、仲間づくりなど
を来年2月から実施できるように進
めています。この事業により、妊娠
期から子育て期まで母親が安心に子
どもを産み育てられる環境づくりが
できるものと期待が持たれます。

また、業務縮小で助産師が15人か
ら2人となった産婦人科では、派遣
医師による週2回の外来と新生児訪
問を行っているほか、マタニティピ
クスの中止で存続が危ぶまれた、お
産学級に変わる今年度内だけの暫定
的な事業として、「親子育ての応援
クラス【別表】」を11月から実施して
います。

妊娠初期・中期・後期の保健指導
や体重コントロール、呼吸法などを
指導する「マタニティ・クラス」、こ
れまでの「ベビーマッサージ」「母乳
相談室」の各コースを2人の助産師
が対応しています。

来年度については、新たな保健事
業として実施が予定されている「こ
んにちは赤ちゃんサロン（仮称）」と
の関わりを見ながら、継続を検討し
ています。

これは、子育てをする家庭の経済
的負担を軽減しようと、紙・布おむ
つや粉ミルク、ベビーせつけんなど
の育児用品の購入に対して助成する
もので、対象者は市内居住の1歳未
満の乳児を養育する保護者。乳児一
人当たり、月3,000円を支給して
います。19年度には利用者からの
利用要望の多い品目を増やすなど、
制度拡充に努めた結果、月平均利用
割合が97.05%（対象者646人に
対し627人が利用）と、非常に高
い数字となっています。

親の就労や病気などの理由で、日
中家庭で過ごすことができない子ど
もを預かり、保護者に代わって保育
する保育所（園）は、市内に市立、私
立（認可）合わせて17カ所あります。
そのうちの5カ所では、朝7時か
ら夕方7時まで「延長保育」のサー
ビスを実施。急用などで一時的に子
どもを預ける「一時保育」も4カ所
で実施しています。これらのサービ
スは、子育てと仕事を両立している
家庭にとっては、心強い味方となっ
ており、利用者からは便利な制度と
喜ばれています。

これは、子育てをする家庭の経済
的負担を軽減しようと、紙・布おむ
つや粉ミルク、ベビーせつけんなど
の育児用品の購入に対して助成する
もので、対象者は市内居住の1歳未
満の乳児を養育する保護者。乳児一
人当たり、月3,000円を支給して
います。19年度には利用者からの
利用要望の多い品目を増やすなど、
制度拡充に努めた結果、月平均利用
割合が97.05%（対象者646人に
対し627人が利用）と、非常に高
い数字となっています。

これは、子育てをする家庭の経済
的負担を軽減しようと、紙・布おむ
つや粉ミルク、ベビーせつけんなど
の育児用品の購入に対して助成する
もので、対象者は市内居住の1歳未
満の乳児を養育する保護者。乳児一
人当たり、月3,000円を支給して
います。19年度には利用者からの
利用要望の多い品目を増やすなど、
制度拡充に努めた結果、月平均利用
割合が97.05%（対象者646人に
対し627人が利用）と、非常に高
い数字となっています。



佐沼病院で実施しているベビーマッサージ。毎回大勢の親子が参加しています

医師確保に奨学金制度を
医師情報データバンクも

医師不足により、市立病院で診療
休止・制限や入院の休止を余儀なく
されている中、市では「医師確保が
市政の最重要課題」と位置付け、市
立病院勤務医、開業医を問わず医師
確保に向けたさまざまな取り組みを
行っています。

まず、中長期的な視点での医師確

保対策として、今年3月に「医学生
奨学金等貸付条例」を制定。これは、
医学部の大学生、大学院生、臨床研
修医に対して修学資金を貸し付けし、
貸付金額に応じた期間を市立病院へ
勤務してもらうことで返済を免除す
る制度です。また、市立病院に3年
間勤務すれば研究機関やほかの病院
などで、市から一定の給与を支給さ
れながら1年間の研修ができる有給
研修制度もあります。

03 | 支援

医師確保に向け地道な取り組み 安心に産み育てるため妊婦や 親を支援策で強力に後押し

県内での医学生奨学金制度は、登
米市と県、栗原市だけの実施ですが、
貸付金額、有給研修制度は登米市が
最も充実しています。なお、奨学金
については、現在2人の医大生に貸
し付けを実施しています。

また、新たな市内への医師招聘促
進策を検討するためには、医師情報
の収集が不可欠と判断。市職員に呼
び掛け、市出身の医師、市内の病院
などに勤務経験のある医師、親戚や
知人、友人である医師など、登米市
に関わりのある医師の情報を集めて、
「医師情報データバンク」の作成に取
り組んでいます。今後は、より幅広
い情報収集を試みるために、市民向
けに情報提供を呼び掛けるかどうか
などを検討しています。

助産師が熱のこもった指導 一方で見え隠れする不安も

常勤医師の不在で、大崎市民病院
からの派遣医師による週2回のみの
外来を行っている佐沼病院の産婦人
科。ここでは、昭和59年から常勤医
師と助産師が中心となり、院内で分
娩する妊婦を対象に、妊娠期の保健
指導や母乳・栄養面などを指導する
「お産学級」を実施してきました。

また、妊婦専用の体操「マタニ
ティピクス」を平成12年、生後1〜
12カ月の乳児と母親が対象の「ベ
ビーマッサージ」を14年から実施。
資格を取得した助産師がお産学級と
ともに指導してきました。

常勤医不在でも安心に 産み育てる環境を充実

9月に開会された市議会第3回定
例会。布施市長は一般質問に対して
これまで実施してきた佐沼病院のお
産学級を新たな保健事業に引き継ぐ
考えの答弁をしました。

妊婦や乳児を抱える母親の交流の
場を設け、妊娠から出産、育児に関
する適切な情報交換ができるように
と、「こんにちは赤ちゃんサロン（仮
称）【別表】」を検討。市の保健師や
歯科医師、歯科衛生士、栄養士、助
産師のほか、子育て支援センターや

特にベビーマッサージについては
実施している医療機関が少なく、母
親間の交流も深められるとあって、
参加者からは「マッサージをする
子どもが気持ち良さそうに喜ぶ」「ほ
かのお母さんたちから自分が知らない
子育て方法を教えてもらい、とて
も勉強になる」などの声が多く聞か
れています。

しかし、8月末に常勤医師が不在
となったことから、常勤医師のいる
ことが条件のマタニティピクスはや
むなく中止。ベビーマッサージに参
加している母親らは、市立病院で分
娩できなかったことに併せて、妊
娠中のケアもできなくなった環境に
直面し、小児医療や将来的な子育て
に関する問題についても心配する声
が上がっています。

【別表】 親子育ての応援クラス

【開催場所】 市立佐沼病院集会室
【問い合わせ】 同病院助産師 ☎ 0220 (22) 5511
【その他】 各コースとも母子健康手帳を持参。

マタニティ・クラス

- Ⅰコース（15週以降） 毎月第1金曜日 午後2時～4時30分
 - ・妊娠初期、中期の保健指導
 - ・体重コントロールについて
 - ・妊娠貧血、妊娠性高血圧症について
 - ・母乳について
 - ・栄養について など
 - Ⅱコース（26週以降） 毎月第2金曜日 午後2時～4時30分
 - ・妊娠後期の保健指導、過ごし方
 - ・お産についての仕組み、流れ
 - ・リラクゼーション、呼吸法、ビデオ
 - ・夫の役割、ペアストレッチ など
 - Ⅲコース（32週以降） 毎月第3金曜日 午後2時～4時30分
 - ・育児について
 - ・ベビーマッサージ紹介
 - ・祖父母の役割
 - ・沐浴実技 など
- ※電話で予約を受け付けます。

ベビーマッサージ

【開催日時】 毎週火曜日 午後2時～3時30分
【対象者】 生後1～12カ月の赤ちゃんと母親、妊婦
【持参物】 ベビー用バスタオル、おむつ
※予約なしで参加できます。
※月齢の違う育児のやり方を目にするのができ、母親
間の交流もできます。

母乳相談室

【開催日】 平日の日中
【内容】 乳房ケア、授乳アドバイス、哺乳の悩み相談 など
※電話で予約を受け付けます。
※医師の診療が必要と思われる人は、外来診療日に再受
診を勧めることがあります。

こんにちは赤ちゃんサロン（仮称）

【開催場所】 南方子育てサポートセンター
（来年度の場所は検討中）
【問い合わせ】 市民生活部健康推進課 ☎ 0220 (58) 2116

【開催日】 平成20年2月～ 毎月2回
【対象者】 妊婦、生後12カ月までの子を持つ母親
【スタッフ】 保健師、歯科医師、歯科衛生士、栄養士、助産師、子
育て支援室職員・子育てサポートセンター、先輩ママ
【内容】 フリートーキング、仲間づくり、子育てに関する情報交
換 など

